

平成 30 年度発達障害児コーディネーター設置事業の報告書

実施主体：佐賀県

委託先法人：非営利活動法人それいゆ

1 事業名

平成 30 年度発達障害児コーディネーター設置事業

2 事業要旨

困難な課題を抱える発達障害を持つ児童・生徒が、家庭での安定した生活や学校への復帰、地域社会での生活をしていくためには、関係機関がそれぞれの場所で支援をしているだけでは、限界がある。このため、医療機関や教育機関、福祉関係機関、その他の地域資源が連携をして対象児を支援する必要があるが、連携を図るためには対象児に関する情報の収集と共通理解が必要である。

そこで、当該事業では、困難な課題を抱える発達障害児に対する適切なアセスメントを実施するとともに、その結果や支援の方向性を関係機関で共有することで共通理解を図り、医療、教育、福祉、その他関係機関がそれぞれの役割を認識したうえで同じ方向性を持って支援できるようコーディネートをしてきた。コーディネートに当たっては在籍校、市町教育委員会、巡回相談員などによる支援会議を定期的に行い、情報共有を行った。

平成 30 年度は 4 名の発達障害児を支援し、2 名は不登校だった在籍校に再び戻ることができたが、他 2 名は在籍校に戻ることができず違う学校に移行することになった。対象者が上手く周囲の環境に適応するには、自身の障害特性を認知するが重要であり、自己認知するためには十分な支援期間の確保が必要である。また、保護者、学校、支援者が連携して、対象者が相談できる体制を整備していくことも重要である。

支援については早い段階ですることが重要であるが、早い段階で支援を受けることができなかった対象者に対しても、新しい環境で上手く適応できる環境整備をしていけるような体制づくりをしていくことが今後の課題である。

3 事業目的

発達障害により家庭や学校で不適応を起し、不登校や 2 次障害、家庭内暴力等の困難な課題を抱えている児童・生徒に対し、適切なアセスメントを実施し、同じ方向性を持って支援することで、本人の家庭生活の安定、学校への復帰、及び地域生活の支援を図る。

4 事業の実施内容

(1) 事業概要

佐賀県では、発達障害児適応訓練事業（フリースクールSAGA）を実施している。この事業では、自閉症スペクトラム、学習障害、注意欠陥多動性障害等のため、学校への不適応、不登校等の就学困難児童について、市町教育委員会や在籍校との連携のもと一時的に在籍校を離れた形での支援を行い、在籍校への復帰を目指している。

今回のモデル事業となっている発達障害児コーディネーター設置事業では、上記の発達障害児適応訓練の訓練終了者に対して、市町教育委員会や在籍校との連携のもと、在籍校への復帰後のフォローアップ支援を行っている。

また、進学後の適応に不安がある児童・生徒に対し、必要に応じて、関係機関と連携のもと移行支援会議を開催し、本人や家族へ支援を行った。

平成30年度に支援対象となった発達障害児は4名であり、以下のとおりである。

対象者	対象者の年齢・性別	所属学校	在籍期間
A	10歳・男児	開成小学校	18ヶ月
B	12歳・男児	北茂安小学校	18ヶ月
C	15歳・男児	城東中学校	6ヶ月
D	12歳・女児	鹿島小学校	12ヶ月

(2) 各対象者への対応

1) 対象者A

平成30年4月25日に移行支援会議を実施。出席者は以下のとおり。

- ・保護者
- ・NPO法人それいゆ（委託先法人）
- ・開成小学校 校長 教頭 担任
- ・大和特別支援学校 巡回相談員
- ・佐賀県東部発達障害者支援センター「結」
- ・佐賀県健康福祉部障害福祉課

対象者Aについて、出た意見は以下のとおりである。

- ・一日の生活の流れに見通しを持つことが苦手であり、やるべきことを自分で判断して行動することが年齢相応にできていない。
- ・休み時間中に次の授業の準備（移動教室、体育の着替え等）をする必要があるが、対象者がその準備の見通しができないことは、本人

にとってストレスがかかる。その状態が続くと本人の気持ちが不安定となり自己評価が下がってしまうので、まずは本人が理解できる手立てを使って、支援していくことが望ましい。

- ・「頑張りたい」「みんなと一緒にいたい」という気持ちがあるが、本人の意思に任せてしまうと無理をして疲れてしまう。支援学級を併用して、頑張りすぎずに、成功体験を積み上げていくことが必要である。
- ・楽しい時や緊張するときに言葉遣いが乱暴になり、友人関係にトラブルが生じてしまうことになるので、その点については本人が学習していく必要がある。

対象者Aについては、半年間、支援者が同伴して学校に通い本人の不安を軽減した。現在は支援学級に在籍しながら毎日登校することができている。

2) 対象者B

平成30年7月25日に移行支援会議を実施。出席者は以下のとおり。

- ・保護者
- ・NPO法人それいゆ（委託先法人）
- ・佐賀市教育委員会
- ・北茂安小学校 教頭 担任
- ・中原特別支援学校 巡回相談員
- ・佐賀県東部発達障害者支援センター「結」
- ・佐賀県健康福祉部障害福祉課
- ・肥前精神医療センター 医師

対象者Bについて、出た意見は以下のとおりである。

- ・IQが130（WISCIV）と全般的な能力が非常に高く、すべての課題で年齢相応以上の得点を示し、特に言葉の知識が豊富で、知識を用いて論理的に考えることに長けている。しかしながら、相手に伝わるようにポイントを押さえて言葉で表現することが苦手なため、言いたいことが相手に伝わらないことがある。
- ・なんでも自分の思い通りにならないと「死ぬ」「自分なんか死ねばいい」などの発言をして、家族を振り回し年齢相応の我慢をすることができない。暴れるわけではなく、自分を責めるので対応が難しい。特に母のストレスは限界にきている。

- ・在籍校の支援学級の担任との関係は良いが、学校自体に拒否反応が強く、登校することはできないと言っている。
- ・中学校から病弱の特別支援学校の入学を希望されているが、半年間の過ごし方が課題で、近隣の放課後等デイサービスの利用も検討していく。
- ・今後、大人になっても精神科の病院の入退院を繰り返していく可能性が高い。今後のことを考えて、フリースクール終了後から特別支援学校入学まで精神科に入院して、ストレスに対応できるように指導していくことも可能（担当医）

対象者Bについては、地域の適応指導教室に支援学級の担任が出向き、フリースクールでの指導をそのまま継続したので、支援終了後も問題なく過ごすことができた。4月からは病弱特別支援学校に入学し、現在も特別支援学校と情報の交換をしている。

3) 対象者C

平成30年2月19日に移行支援会議を実施。出席者は以下のとおり。

- ・保護者
- ・NPO法人それいゆ（委託先法人）
- ・佐賀市教育委員会
- ・城東中学校
- ・大和特別支援学校 巡回相談員
- ・佐賀県東部発達障害者支援センター「結」
- ・佐賀県健康福祉部障害福祉課

対象者Cについて、出た意見は以下のとおりである。

- ・中学1年生の4月に佐賀市に転居して城東中学校に入学したため、学校になじむことができずに不登校になってしまった。小学生から専門医療機関に通って支援も受けてきたが、通院することに本人は否定的であった。家族もどのような支援をしていけばいいかわからず、もっと早くフリースクールを利用すれば良かったと思っている。
- ・9月から利用開始だったが、3月で中学校を卒業し義務教育を終了するため、フリースクールの利用期間が短い。フリースクールには毎日登校し、支援者との関係は良好であった。自分の将来を考え通

信制の高校に入学を決めることができた。

- ・入試や、見学会などフリースクールのスタッフと一緒に行って確認し、自信がついてきた様子である。

対象者 C については、通信制の高校に入学したが、入学者のオリエンテーションで不安定な精神状態となり、すぐに不登校となった。母親との面談や、本人への支援をしながら、学校と話し合いを継続した。学校での過ごし方、学校ができる配慮などを細かく話し合って支援をしたが、集団で過ごすことに対する不安が強く、11月に退学を決めた。来年度、病弱特別支援学校の入学を希望されている。

4) 対象者D

平成30年3月8日に移行支援会議を実施。出席者は以下のとおり。

- ・保護者
- ・NPO法人それいゆ（委託先法人）
- ・鹿島市教育委員会
- ・浜小学校
- ・うれしの特別支援学校 巡回相談員
- ・佐賀県東部発達障害者支援センター「結」
- ・佐賀県健康福祉部障害福祉課

対象者Dについて、出た意見は以下のとおりである。

- ・自分自身のことについて学ぶことに抵抗が強く、自分の障害の受け入れが難しかった。他人に心を開くことができず、自分の内面を出すことができなかった。分かって欲しいという思いと、立ち入ってほしくないという感情が交錯していて、自分でもどうしていいかわからない様子だった。
- ・両親が仕事で忙しく殆ど関わるができなかった。自宅では中学3年生の姉と小学2年生の弟が不登校で、姉とのトラブルが多かったため、フリースクールに通うのは楽しそうだった。
- ・地元の中学校に通うことはできないと言い出したので、佐賀市の中高一貫の私立に受験し合格した。姉も同じ高校に合格したので、一緒にスクールバスで通うと楽しみにしている。
- ・自分の障害を認めたくないため、中学校には絶対障害を言ってほしくない并希望している。

対象者Dについては、入学後毎日通学できていたが、6月から不登校になる。私立なので学費が高いが、地元の中学校に転校することは絶対嫌だというので在籍している。定期的に母親との面談を行い、今後について相談を受けている。

5 分析、考察

平成30年度は4名の発達障害児を支援し、2名は不登校だった在籍校に復帰することができたが、他2名は復帰できなかった。在籍校への復帰が上手くいった2名については、フリースクールで行ってきた支援を継続して取り入れることで、支援対象者が自身の障害の特性を理解し、不登校になった原因に上手く対処できるようになり在籍校で過ごすことが可能となった。一方、在籍校への復帰が上手くいかなかった2名については、フリースクールの利用期間が短く、自分自身の障害への理解が不十分なまま支援が終了したため、不登校になった原因に上手く対処することの術を身につけることができなかった。

この結果から発達障害児が周囲の環境に適用するには、自身の障害の特性を認知して、障害となっている点についてうまく対応できる能力を対象者が身につけると、保護者、学校、支援者が連携して、対象者が相談できる体制を整備していくことが重要である。

対象者が自己認知するにはある程度の時間が必要である。在籍校からの卒業が迫っている中学3年生などは、十分な支援期間を確保することができず、自己認知が不十分となり、上手く周囲の環境に対応することが難しくなる。また高校に進学して周囲の環境が大きく変わることにより、周囲の相談体制が不十分になってしまうことも復帰が難しくなる要因となる。支援については早い段階で実施することが重要であるが、早い段階で支援を受けることができなかった対象者に対しても、新しい環境で上手く適応できる環境整備をしていけるような体制づくりをしていくことが重要である。

6 企画・推進委員会の実施状況

平成31年3月11日に「第12回佐賀県発達障害者支援開発事業企画・推進委員会が開催された。

フリースクールとはいえ、二次障害で不登校となっている児童生徒に必要なのは福祉的側面からの支援である。関係する専門機関と情報の共有をして、教育的側面だけでなく福祉サイドも入れた両面からの支援を、学校の現場に伝えていく必要がある。

7 成果の公表実績・計画

佐賀県ホームページで取り組み結果を公表する予定である。

平成30年 4月 フリースクール SAGA 経過報告

氏名 _____

<p>長期目標</p>	<p>○スケジュール等自分にあつた支援グッズを活用して、自立して行動することができる</p> <p>○コミュニケーションが必要な場面で、相手に適切に伝えることができる</p> <p>○自分の持ち物、使った道具の管理をすることができる</p> <p>○現在の教科学習から、進めて学習ができる</p> <p>○学校に登校することができる</p>		
<p>身辺自立</p>	<p>短期目標</p> <p>決められた予定に従って、フリースクールに登校することができる</p>	<p>支援方法</p> <p>・本人の体調や環境への適応に合わせて登校スケジュールを組む</p>	<p>評価</p> <p>達成 現在は月・水・金の週3日は、フリースクールに登校。木曜日は、学校登校。火曜日は本人の体調に合わせて、本人がフリースクールに登校するか欠席するか選択している。 登校時は送迎・帰宅時はタクシーで下校している。 学校の登校時間も、設定した時間に予定通り登校することが出来ている。</p>
<p>フリースクールでスケジュールに沿って自主的に活動することができる</p>	<p>・現在家やほかの専門機関で利用しているスケジュールと同じ形式でフリースクール用のスケジュールを作成する</p>	<p>達成 フリースクールではフルデイで1日のスケジュールを紙で提示している。学校は登校してから各時間割の時間に沿ったスケジュールを使用している。それぞれ違うが、スケジュールに沿って活動が出来ている。</p>	
<p>フリースクールの個別の部屋で自分の荷物を整理整頓して置くことができる</p>	<p>・荷物を置く場所を明確にし、ラベリングする。</p>	<p>達成</p>	

コミュニケーション	<p>フリースクールで借りた物を、「ありがとうございます。」と返すことが出来る</p> <p>自分の要求を適切に伝えることが出来る</p>	<p>日々のコミュニケーションが必要な場面でその都度確認していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える時の適切な伝え方をセリフとしてスケジュールの中に入れていく。 ・各エリアに、適切なコミュニケーションのセリフを表にして貼っている。 	<p>達成</p> <p>借りた物を返すときは、「ありがとうございました。」と言って返すことが出来ている。少し照れくさそうにボンボンということもあるが、お礼を伝えて返すことは理解できている。</p>
学習	<p>学習に取り組むことができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールの中に勉強の時間を設定している ・本人の集中時間をアセスメントして、スケジュールに勉強の時間を設定する 	<p>達成</p> <p>設定された課題に集中して取り組むことができている。現在の学習時間は、一人で勉強は10～15分程度、先生と勉強は15～20分程度取り組むことができている。</p> <p>今月から他のメンバーと性についての勉強を始めており、積極的に発言をすることができている。</p>
ソーシャルスキル	<p>嫌だと感じた時に、相手に対して適切な伝え方で拒否を伝えることが出来る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に拒否を伝えてもいい状況の例を学習する ・振る舞い方の1つとして拒否のコミュニケーションの伝え方を学習する ・本人が実際に経験した状況を具体例にあげて振り返る 	<p>継続中</p> <p>フリースクールでは拒否が必要な場面があまりなかった。</p> <p>今後学校生活をしていく中で拒否が必要場面も出てくると思われるので、今後フォローアップの中でも学習を行っていく。</p>

	<p>同年代との遊びの関わりの中での、誘い方、断り方、断られ方を知る</p>	<p>視覚的な情報と、ロールプレイを行って学習を進める</p>	<p>検討中 学校生活をしていく中でもこのスキルが必要な場面がたくさん出てくると思われるので、今後フォローアップの中でも学習を行っていく。</p>
<p>職業スキル・生活スキル</p>	<p>買い物をする事ができる</p>	<p>スケジュールの中に「買い物」の時間を設定する。</p>	<p>達成</p>
<p>簡単な掃除に取り組むことが出来る</p>	<p>検討中</p>		

フリースクールでの様子

春休み明けも、元気にフリースクールに登校することができていました。学校登校も、4月6日(木)に予定通り登校することができました。学校登校が終わると、本人から学校に登校する日を増やしたいというような言葉も見られ、学校へ登校することに対しても意欲的な気持ちのようです。昨年の5月、利用はじめのころは本人の「学校に行きたくない」という気持ちと、家から外出する習慣(体力)がないという状況でしたが、現在は、「はやく学校のみんなと関わりたい」というような、気持ちの大きな変化がみられ、毎日家を出て学校やフリースクールに登校する生活リズムにも慣れてこられました。また、以前は「やまびこには行かない」という思いだったので「やまびこも楽しいかも。」というような印象が変わり、やまびこを活用しながら自分のペースで登校することも受け入れることが出来るようになりました。設定していた目標をクリアできていたことが少ずつ自信になり、成長されたのだと思います。今後も、保護者と本人、学校の先生方と相談しながら学校への移行に向けて進めていければと思います。

保護者のコメント

フリースクールに通うようになり1年が過ぎ本人の特性に合った指導をしていただいて不安も減り落ち着いて過でせています。
フリースクールでのお友達に対しても、だんだんと不安も少なくなり楽しく過ごせているようでほっとしています。
小学校でもスケジュールでの管理や次の登校への不安を少しでも減らせるように活動内容を予告していただきながら様子を見ながら時間を増やしてもらえているので今の状態を継続しながら頑張っしてほしいと思っています。

H30. 4. 25







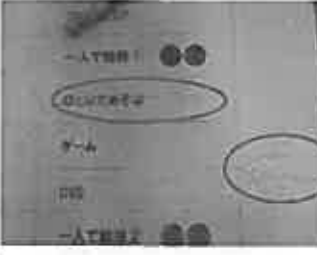




自閉症特性シート


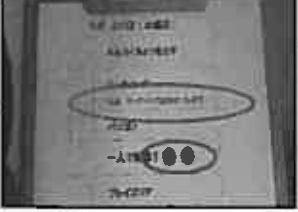


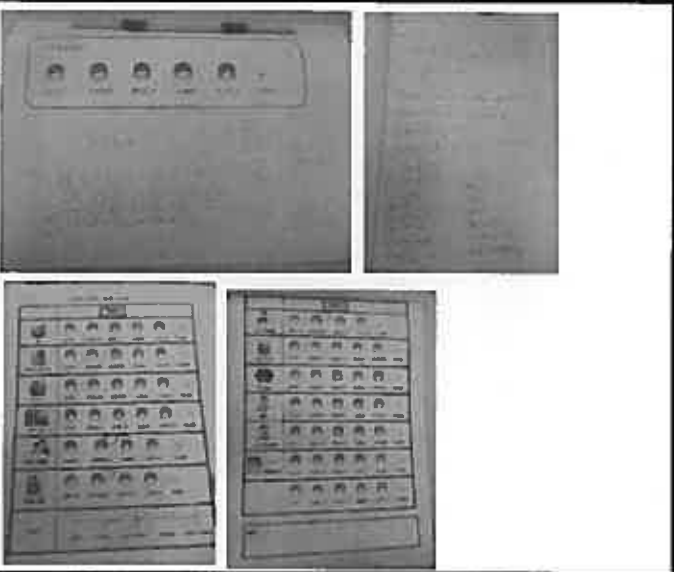
特 性	本人の行動や特性	支援上の留意点
社会性・対人関係の特性 一人でいることを好む、アイコンタクトやジョイントアテンションの困難さ、社交場の合図の読み取りの困難さ など	<ul style="list-style-type: none"> ・人と関わることが好き ・初めて会う人には緊張するが打ち解けると親しげに話すことができる ex: フリースクールに登校し始めの頃はスタッフの名前を呼ぶことも出来なかったが、打ち解けると「〇〇先生」と読んだり自分から遊びに誘ったりすることが出来るようになっている。 ・人との関わり方が自分の興味関心に偏っており、自分から他者に合わせて話題を選んだり、関わるのが難しい ・決められた時間やルールは忠実に守ることが出来る ex: 本を読んでいても、タイマーがなったら活動をやめて次のスケジュールをチェックしに行くことができています。 ・場の雰囲気（暗黙の了解等）を読み取ることが難しく、状況に合わない言動をしてしまうことがある ex: スタッフと他のメンバーが会話をしているところに、別の活動中でその場にいない状態でも、声だけで突然会話に参加をしてくたりすることがある ・相手の思考や気持ちをその場で瞬時に想像しながら人に接することが難しく、相手に思ったことをそのまま言うてしまうことがある ・人を驚かせたり、喜ばせることが好き（サプライズでプレゼントする） ex: フリースクールのメンバーみんなでおやつタイムを設定することをお知らせした時に、昼食の買い物で「みんなで分けれるように」と個包装のお菓子を買っていた。その後のおやつタイムの時に他のメンバーやスタッフに配っていた。 ・気持ちが高まった時は、声のボリューム調整が難しい ex: ゲームやプレイエリアの時間に、楽しくてテンションが上がってくると、声の音量がとても大きくなってくる ・身振り手振りが大きく、表現の仕方やリアクションが基本的に大きい。 ・慣れた相手に対しては、言葉遣いが乱暴になってしまうことが多い ex: 乱暴な言葉を使っているが、怒っているなどではなく甘えている表現でもあるのだと思われる 	
受容コミュニケーションの特性 言語指示の理解の困難さ、字義通り理解する、言語指示を整理してつかむことができない など	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かりました。」「大丈夫。」と答えていても、話の内容を理解できていないことがある ・「あれ」「これ」「そっち」「あっち」等の具体的でない表現で示されると、その位置を察知することが難しい ・一度にたくさんの言語指示は整理してつかむことが難しい ・口頭での予定の変更は柔軟な対応が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・変更は視覚的に伝える方が理解しやすい
表出コミュニケーションの特性 無言語、エコラリア、声の調子やリズム、意思交換の困難さ など	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを適切な言葉で表現するのが苦手 ・恥ずかしさがあるのか、しっかりした発音で発言しないことが多い ex: 何か物を貸してほしい時の伝え方が、「〇〇を貸してください〜。」や「しゃしたー（ありがとうございました。）」と冗談めいた感じで伝えてくる。 ・思ったことを整理し、必要な情報をまとめて他者に伝えることが難しい ex: 突然、「〇〇だったんだよね。」と伝えてきたことがあったので、どうということが具体的に質問すると状況や理由が伝わってくるというような説明の仕方が多い。 ・スタッフに道具などを借りる時、機嫌よく踊ったり歌いながら伝えることがある。 ex: DVDやゲームのソフトを借りる時に「貸してくーださーい♪」や「誰と遊べるのー♪」と踊りながら歌いながらスタッフに伝えてくる。 	

<p>変化の対応の特性 場所、物、日と、予定、習慣の変化の不安・抵抗、強迫的な行動、ルーティンの必要性 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しがあると安心して活動ができる ・変更は、理由を伝え視覚的な提示をすることでスムーズに受け入れることができる 	
<p>転移性・衝動性の特性 興味関心が激しく移り変わる、何かに突き動かされるような行動 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることに関しては、とても集中して取り組むことができる 	
<p>注意・注目の特性 注目することの困難さ、切り替えの困難さ、遂行の困難さ、全体より細部に注目など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの情報の中から、自分に重要な情報をつかみ取ることは苦手 ・本人にとって興味のない物に注目を向けることは苦手 <p>ex: 興味のない話題で話を進めても、話を集中して聞くことが難しく、終わりと伝えていない段階で、自分のタイミングで席を立ってし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な指示には忠実に従うことができる 	
<p>環境統合の特性 順序立てて考えることの困難さ、スケジュールや手順の調整、実行機能の困難さ、空間を計画的に整理して活用したり、物や材料を整理しながら活動を進めることの困難さ、場所を多目的に使うことの困難さ など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物の置き場所を決めてラベリングすることで、自立的に整理整頓をして置くことができる ・見通しを持って行動することが難しい ・自分のやるべきことに優先順位をたてることが難しい <p>※スケジュールや手順書があると、その順序に沿って安心して活動に取り組むことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの空間を複数のエリアとして多目的に使うことができる <p>ex: 個人のブース（棚、机、椅子のみを置いた空間）をスケジュールチェックするエリア、勉強するエリア、制作活動をするエリアなどと複数のスケジュールを行うエリアとして使うことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたいことと、時間を見越して予定を立てることが難しい <p>ex: 休日にやりたいことがたくさんあり、「●●をして、●●をして…」と自分の中でたくさん予定を立てていたようだが、その予定が終わらない状況にイライラし泣いてしまうことがあったとのこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・荷物エリアの道具の整理などには文字カードを使用する

関係理解の困難さ 関連付けしすぎ、関連付けが難しい、自己流の解釈、字義通りの解釈、絵などを具体的につかみすぎる など	<ul style="list-style-type: none"> ・白黒思考で、「大体」やグレー部分の想定、概念が難しい 	
般化の特性 習得したスキルを他の場面で使用することの困難さ、材料・場面・指導者が変わったときに課題を遂行できない など	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭やフリースクールで取り組んでいるスケジュールを学校でも使用して自立的に行動することが出来る 	
記憶の維持の特性 短期記憶・作業記憶などの維持の困難さなど		
長期記憶の特性 一度経たした記憶が消せない、修正・変更の困難さ、フラッシュバックで混乱など	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも同じパターンの行動は、1度伝えるとその後継続して行うことが出来る <p>ex: 「1人で勉強」で取り組んだ課題を、終わったらその都度スタッフのところにあるカゴに提出するように伝えるとその後は毎回忘れずに提出することが出来る</p>	
感覚の特異性 視覚刺激、聴覚刺激、味覚刺激、嗅覚刺激、触覚刺激などによる反応、または鈍感さ、鋭敏さ など	<ul style="list-style-type: none"> ・突然の音や声が苦手な音の原因や出どころが気になる <p>ex: 他の利用者がDVDを見ていてその音が漏れて聞こえていたことがあると、「なに！何の音?!」とびっくりして慌ててスタッフに尋ねることがある。説明し、納得すると「あっそう。」とすんなり受け</p>	
指輪運動・粗大運動 手と目の供給の困難さ、手先の不器用さ、緊張や柔軟さのない身体全体の動きなど	<ul style="list-style-type: none"> ・手先が器用 ・粗大運動は好きではない 	
その他の特性 感情のコントロール など	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の要求が通らなかつたり、見通しが持てず不安になつたりと気持ちがいっぱいになると、家庭では泣き出してしまふことがある ・本人が「たまつたストレスは、ゲームをすることで発散している」とのこと。 ・家庭での状況で、手洗いや汚れに対して過敏になる事がある <p>ex: 手洗いを頻繁に行つたり、家の手洗い場にあるタオルは誰が使つたか分からない為、タオルを使わずに自然乾燥させているとのこと。</p>	

記録日:

支援	支援計画	図・写真・リンク	
物理的構造化	<p>どのようにエリアが設定されているか</p> <p>一つの場所に一つのエリア(場所によっては多目的に使用)</p> <p>どんな境界があるか</p> <p>仕切り、マット、家具</p> <p>副教材の統制をどのように支援しているか</p> <p>3~4面の仕切りがあることで、周囲の動きが目に入らないようになっている</p>		
スケジュール	<p>視覚的合図はなにか(何で理解するか)</p> <p>活動名(文字)</p> <p>長さは</p> <p>フルデイ(登校から下校までを提示)</p> <p>形態・タイプについて(どんなシステムか)</p> <p>スケジュールを上から順番に取り組んでいく(活動の開始時にチェックする)</p> <p>チェックは(トランジションは)</p> <p>タイマーがなったら次の活動を確認</p> <p>どこに設置されているか</p> <p>個人エリアの三段ボックスの上</p> <p>変更のシステムは?</p> <p>スケジュールに直接記入する</p> <p>中止 </p> <p>変更  勉強 → プレイエリア</p> <p>追加   本 } 一人で遊ぶ</p>	 	 
ワークシステム	<p>システムの種類</p> <p>スケジュールと一体型 (勉強のスケジュール部分に番号が記入されている)</p> <p>何を見て課題の内容を知るか</p> <p>スケジュールに提示されている番号(①~④)と同じ番号の課題ファイルの中身</p> <p>どうやって課題の量を知るか</p> <p>スケジュールまたは課題ファイル置き場を確認する</p> <p>どうやって課題の終わりを知るか</p> <p>準備された課題を解き終わって、やるべき課題がなくなったら終わり</p> <p>課題が終わったら何があるか、何を見て知るか?</p> <p>次に提示されているスケジュール</p>	 	

視覚的構造化	視覚的指示	文字、イラスト、写真、モデル	
視覚的整理統合	視覚的整理統合	それぞれの道具の置き場を決める	
視覚的明瞭化	視覚的明瞭化	色によるハイライト、写真	
コミュニケーションシステム	<p>システム・タイプは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉、または カード+言葉で伝える <p>設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVDやゲームの時間に、活動に必要な道具をスタッフに伝え借りてから、活動に入る状況を意図的に設定している <p>「〇〇先生、▲▲のゲームを貸して下さい。」 ※カードを使用しているのは、</p> <p>①要求を伝える時に相手の方向性を意識するため ②誰であったとしても、スムーズに要求が伝わるようにする為</p> <p>教えるための工夫</p> <p>コミュニケーションをする場面を意図的に設定したり、必要なコミュニケーションをセリフとしていつでも思い出せるよう壁に貼っている</p>		
その他のシステム・及び支援	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションシートを使用 <p>目的:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分の気持ちを溜めこまず、その時、その日のうちに消化していけるようにすること ②人に相談する練習をする ③自己コントロールとして、ストレスを溜めこまず発散することの1つにもなる <p>1日の気持ちを振り返る時間を設定している</p> <ol style="list-style-type: none"> ①下校前に「先生と話」の時間を設定 ②その日一日の活動について、視覚的な手立てを使ってスタッフと一緒に振り返る(気持ちの選択肢の中から選びチェックをする) 		

支援シート

利用者：

活用できる 本人の情報	どんな視覚的な情報は得意か？ 文字、写真、イラスト
	本人の興味・関心（好きなもの、活動）は？ 動機づけになるものは何か？ ・ゲーム ・パソコン（動画を見たりパソコンでゲームをしたりする） ・ブロック ・人形遊び ・本を読む ・ジュースを買う ・親しい大人と一緒に遊んだり、おしゃべりすること
	得意なことは？ ・絵を描くこと ・パソコン ・ゲーム ・ネット検索（ゲームに関して） ・ブロックで物を作る ・ルールを意識して行動すること
	嫌いなこと、苦手なことは？ ・漢字 ・計算 ・見通しが立たないこと ・急な変更 ・曖昧な指示 ・順序立てて行動すること ・整理整頓 ・初めての経験 ・運動 ・初めての場所 ・初対面の人 ・相手の気持ちを瞬時にイメージすること ・言葉のみでの説明の理解、記憶 ・気持ちや要求を適切に相手に伝えること
	コーピングストラテジー、Tool Box、リラクゼーションは？ ・ゲームをすること ・好きな動画を見ること ・マンガ本を見ること ・好きなテレビ（金曜ロードショー）を見ること
	終わりをなにで知ることができるか？ ・タイマーが鳴る ・準備されたものがなくなったとき ・声かけや事前に決めた合図
	その他の活用できる情報
新しいことを教えるときの工夫・方法	新しいことを教えるときの手がかりのタイプは？ ・言葉の説明と一緒に、文字や写真、イラストなどで視覚的な情報を交えて伝える ・実際にやっているところを見せて示す
	情報処理に配慮することがあるか？（スピードや情報量への対応）
	教える時に配慮することがあるか？ 周囲の音や会話が聞こえてくると、どうしてもそちらに気が向いてしまい、話を聞くことがおろそかになってしまいやすいところがある。重要なことを伝える時は、静かなタイミングであったり、仕切られた場所で行う方が集中がしやすい
	その他活用できる工夫・方法 新しいことに取り組む際は、何のために行うのか、取り組むことでこういったメリットがあるのか、どのような手順で行うのか、いつ行うのか等、事前に本人が納得できるような具体的な説明をすることでなるべくスムーズに落ち着いて取り組むことができる

コミュニケーションシステム	本人が好んで使っている形態は？
	<input checked="" type="checkbox"/> 言語 <input checked="" type="checkbox"/> 文字 <input type="checkbox"/> 写真 <input checked="" type="checkbox"/> 絵 <input type="checkbox"/> 具体物
	どんな機能の表出が多いか？
	<input checked="" type="checkbox"/> 要求 <input checked="" type="checkbox"/> 注意喚起 <input type="checkbox"/> 拒否 <input checked="" type="checkbox"/> コメント <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 情報請求 <input type="checkbox"/> その他
	どんな場面（文脈）で表出することが多いか？
	人と話すことは好きな為、知っている大人といると 大体ずっと話している
その他、配慮すべき項目	誰にコミュニケーションをすることが多いか？
	近くにいる知っている大人 ・家族
	親しい大人には、自分の気持ちや思いをぶっきらぼうな言い方ではあるが伝えることができている。しかし、本人が軽い雰囲気や言ってしまう為、冗談なのか、本当に困っているのか分かりづらいことがある。本人が何か伝えてきた時は、話の時間を設定し、本人の気持ちを具体的に確認した方が、本人の気持ちの安心につながると思われる。また繰り返し経験することで、人に伝える状況や伝え方に慣れていくことが出来ればと思う。